

サステナビリティ日本フォーラム 平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

2014.12

会員動向・財務報告

～収入は昨年に比べ 3 割減、安定的かつ使途自由度の高い収入源が課題～

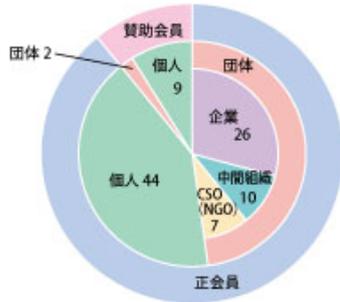


図 1) 会員内訳 (合計 98)

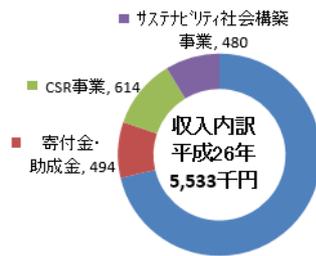


図 2) 収入内訳 (千円)

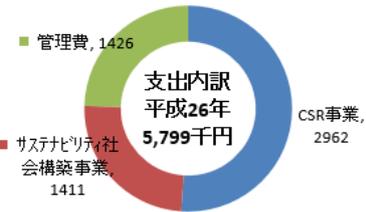
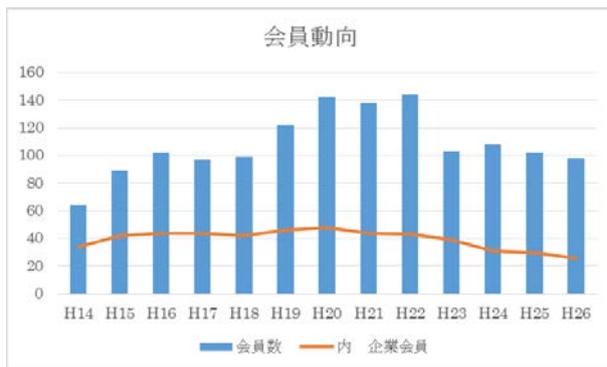


図 3) 支出内訳 (千円)



会員数は 98 (平成 26 年 12 月 31 日現在)。17 名の役員、27 名の評議員および 10 名の運営委員と専従職員は 1 名。平成 26 年度の入退会状況は、企業会員は 2 社入、3 社退 (1 社減)。個人会員は 8 名入、2 名退 (6 名増)。

収入の 71% を占める会費収入 (内 68% は企業会員費) の中で、企業会員の減少が全体に与える影響は大きい。

図 4) 会員数の動向

事業概要

○:会員拡大含め一般向けにも開催 △:会員向けに開催 ※:新規取組み ×:廃止

対象者	サステナビリティに資する情報開示を促進し持続可能な社会を構築するためのプログラム		
	調査・研究	講座・座談会	レポート・発行物
CSR 部門担当者 / サステナビリティ・CSR 志向の企業人 / CSR の裾野を広げる取組みに関心を持つ人	△未来データ&シナリオ研究会※ △レジリエント企業価値評価価格付け WG※ △EU 会計指令の動向調査 ○CSR レポート作成支援×	○シリーズ勉強会 ○役員向け CSR 講座※ △CSR 基礎講座 △基礎講座フォロー編※ △エシカル市場拡大のためのガイドブック (以下、RT) ※ △GRI Bastian 氏との RT ○G4 シンポジウム △役員懇談会	△エシカル市場拡大のための RT 報告書 ○ラギー・フレームワーク ○第三者意見書ガイドライン △シリーズ勉強会レポート △ウェブサイト・会員専用ページ運営 ○メールマガジン
サステナブルな社会構築・地域創生に関心を持つ人	○海士町 再生可能エネルギー自給率向上の取組み		○地域地球学での取組みをまとめた報告書

事業報告 (1) CSR 事業

1、企業の CSR 活動を啓発・促進する事業

■…平成 26 年度新規取組み

満足度…アンケート回答で勉強会の内容について適切・概ね適切 80%以上を◎、60～80%を○、60%未満を△とする

シリーズ勉強会 テーマ「長期的価値創造について理解を深める」

開催日	タイトル	講師 (敬称略)	参加者数 (非会員)	満足度 (アンケート回答率)
6/18	統合報告を『正しく理解する』には	国際統合報告評議会 小澤ひろこ 大和証券投資信託委託(株) 菊池勝也	30 (14)	◎ (70%)
7/23	持続的成長を目指す企業にとっての非財務情報とは	(株)QUICK 広瀬悦哉 (株)クレーン 後藤英樹	24 (10)	○ (42%)
9/24	経営全体で長期的価値創造に取り組むためには	日本電気(株) 藤井浩美、成川泰教 CSR レビューフォーラム 岸本幸子、 山口智彦	22 (12)	○ (86%)

CSR 基礎講座

開催日	タイトル	講師	参加者数 (非会員)	満足度 (アンケート回答率)
1/21,2/19,3/19 10/15,11/12,12/17	役員・部長 (室長) のための CSR 基礎講座 全 2 回	Sus-FJ 後藤敏彦	10 (1)	◎ (-)
1/15,2/10,3/12,4/9,5/15, 6/11,7/9,7/17,10/8,10/22	CSR 担当者のための CSR 基礎講座 全 5 回	Sus-FJ 鎗野達男	23 (11)	◎ (52%)
10/10	CSR 基礎講座フォロー編	Sus-FJ 後藤敏彦	14 (4)	○ (56%)

延岡地域雇用促進協議会より委託を受け「企業活動と CSR (企業の社会的責任)」開催 (11/27,28)。

研究会

開催日	タイトル	専門家への意見徴収 (敬称略)	参加者数 (非会員)
4/18,4/28,6/2,6/30, 7/28,9/22,10/27, 11/25,12/26	未来データ&シナリオ研究会 第 1 回～第 9 回	駒澤大学 李妍焱、日本経済大学 ミヤツカラ・金在叔 昭和シェル石油(株) 角和昌浩、地球村研究室 石田秀輝、 元高校物理教師 姉川秀治	13 (0)

2030～2050 年を見通す上で重要な地域への視察として上海を訪問 (5/17～20)。

ラウンドテーブル (以下、RT)

開催日	タイトル	参加者数 (非会員)
3/19	GRI Director Reporting Standards Bastian Buck 氏との RT	11 (1)
4/14,6/5, 8/22, 10/1	エシカル市場拡大のための RT 「(オーガニックコットン) 5%じゃ、ダメですか」全 4 回	32 (18)

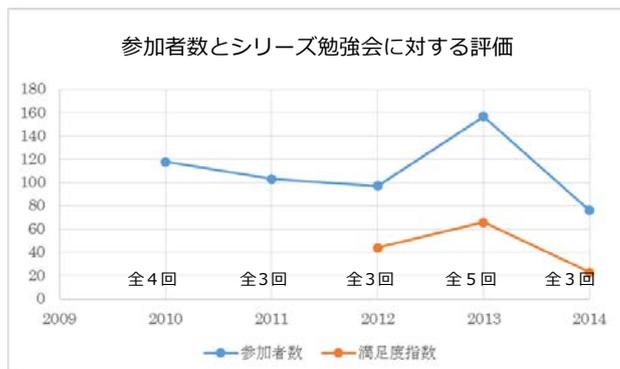


写真 1) シリーズ勉強会



写真 2) 5%じゃ、
ダメですか RT



図 5) RT 報告書

図 6) 満足度指数 = 参加者数 × 満足度 (アンケート結果) の推移

2、サステナビリティ・レポートの国際標準をめざす GRI ガイドラインの普及・啓発事業

G4 マルチステークホルダー委員会共催シンポジウム

開催日	タイトル	講師（敬称略）	参加者数 （非会員）	満足度（アンケート回答率）
12/15	マテリアリティの特定を長期的な企業価値向上に結びつけるには	LRQA 富田秀実、Sus-FJ 後藤敏彦、(株)クレアン 富田洋史、(株)セブン&アイ・ホールディングス 伊藤順朗 大阪ガス(株) 原寛之、損害保険ジャパン日本興亜(株) 関正雄 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 川北秀人	198 (127)	◎ (49%)

3、サステナビリティ・レポートに関する研究を推進し、国内外へ提言・提案を行なう事業

ラギー・フレームワーク頒布数は平成 26 年度 36 冊増で累計 610 冊。

マテリアリティに関する原稿執筆（経済産業省「環境報告書プラザ」）。

一般社団法人レジリエンス推進協議会より委託を受けレジリエンスと企業評価の在り方について検討するワーキンググループを立ち上げた。※全 4 回開催予定（平成 26 年 12 月～平成 27 年 3 月）

開催日	タイトル	委員（敬称略）
12/15	レジリエント企業価値評価格付けワーキンググループ第 1 回	Sus-FJ 後藤敏彦、(株)大和総研 河口真理子、(株)日本政策投資銀行 竹ヶ原啓介、高崎経済大学 水口剛、CDP 森澤みちよ

事業報告 (2) サステナビリティ社会構築に向けた調査・研究・支援事業

～地域創生の星、海士町で再生可能エネルギー自給率向上を目指し取り組んでいます～



写真 3) 役場での意見交換

あま未来アイランドプロジェクトとして、国内外からの注目が高まる海士町と環境経営学会の再生可能エネルギー研究委員会との 3 年目となる協働取り組み。

3 月～8 月にかけて全国 5 箇所の視察。環境経営学会研究報告大会（5/24）や上智大学（10/14）での報告。1 月～12 月にかけてスカイプ会議を全 10 回開催。島前高校の地域地球学での取り組みをまとめた報告書 300 冊を教育委員会や教育関係者に配布。

広報活動

ウェブサイト・会員専用ページの運営

メールマガジンの配信

配信数は全 47 号配信（+29 通）。購読者数は 1,275 名（-19 名）。

その他

役員懇談会

開催日	ゲストスピーチ（敬称略）	参加者数
1/9	「G4 策定プロセスについての共有」LRQA 富田秀実	16
8/19	「CSR からみたアベノミクスの光と影」セコム(株) 中山泰男	20

その時々的重要なテーマについてゲストを呼び、各界の CSR 分野でご活躍の理事・評議員が情報交換、意見交換をする場を提供。

認定 NPO 法人に向けた取り組み

仮認定 NPO 法人に認定（8/1）。寄付金と賛助会費に対して「所得控除」が適用される。認定 NPO 法人の要件をクリアするために、寄付金の募集と民間助成金への申請を行い、平成 28～29 年の認定を目指す。